

# 天文学とプラネタリウム

第123回



今月のお題

## 9年目に突入、アストロクラブ



いつの間にか9年目を迎えたアストロクラブ。その戦略的意義についてご紹介します。

六本木ヒルズにて星空カフェ開催中！



www.tenpla.net

高梨直紘 (東京大学)

平松正顕 (国立天文台チリ観測所)

「初めての子は望遠鏡作りをしますよー、そうじゃない子は屋上に行って観察するよ！」2006年から三鷹市立第四小学校で毎月1回行われている『アストロクラブ』が、今年度も始まりました。活動をはじめて9年目に突入しましたが、活動の基本は変わらず“晴れたら屋上で星を見て、曇ったら室内でなにか楽しいことでもしよっか？”。その力の抜き方がちょうど良かったのか、気がつけばかなりの時間が経過していました。最初の頃に小学生だった部員の中には、すでに大学生になった人もちらほら。中学生や高校生のOB/OGには、クラブのサポーターとして毎回の活動を手伝ってもらっています。みんな大人になるのが早いな…。

アストロクラブの部員は平均40名程度なのですが、部員の半分は1,2年生たち。学校の授業ではまだ宇宙はもちろん、理科の勉強も少ない世代なのですが、進んで部員になるだけあってその知識欲は旺盛です。分厚い図鑑を毎回愛おしそうに抱えて来る子、自分で作った観察記録を嬉しそうに見せてくれる子、宇宙のことならなんでも細かい数字まできっちり覚えている

子。ふつうの大人では足元にも及ばないくらい、宇宙に対する知識と愛の深い子たちです。

こういった子どもたちの相手、大変じゃないですか？ちっちゃい子には話が通じないでしょう？なんて聞かれることもあるのですが、これはとんでもない誤解です。天プラにとって欠くことのできないもっとも大事な活動のひとつが、アストロクラブなのです。

### 子どもの素朴さは無敵

誤解を恐れずに言えば、大人相手の活動ほど簡単なものはありません。「宇宙の果てはどうなっていますか？」なんて質問されても、「宇宙には事象の地平線と粒子の地平線というものがあって…」なんて答えれば、たいいてい人はなるほどと納得します。いや、納得したふりをします。こちら、納得させたような満足感を覚えます。これがいけない。だって、それは宇宙の果てがよくわからないことがわかっただけで、なにでも宇宙の果てについてはわかっていないからです。

子ども相手は、こうはいきません。「だからね、



たまに豪華ゲストを招いてのお話し会なんかもやっています。

事象の地平線が…」なんて説明をしても、納得なんかはしてくれません。まったくもって意味不明な回答だからです。確かに！そこで、彼らが持っている知識や経験をうまく絡めながら、どんな言い方なら先に進めるのかを知恵を絞る必要が出てきます。このプロセスが決定的に大事です。私たちが気がついていなかった説明の仕方や、新しいたとえ話を見つける大事なチャンスになのです。ここで子どもたちに鍛えられれば、大人の相手なんてその簡単な応用問題に過ぎません。素朴な疑問や、飽くなき探究心で私たちが鍛えてくれるアストロクラブは、今後も天プラの大事な活動のひとつとしてあり続けることでしょ。